

2006 年度

科目名 ゼミナール I	対象学科・学年 文学部コミ3 回生	担当者 岡島 克樹
授業テーマ 国内外の社会課題の原因と解決・緩和の取り組みについて学ぶ		
授業の概要と目標 ゼミ生それぞれがコミュニティ研究演習で選択したトピックについて、さらに幅広く深い知識と理解を得るために、文献読解を行う。また、自分が理解した内容を他の人と共有するためのコミュニケーション能力を高めるために可能な限り多く発表の機会を設ける。		
評価方法 ゼミ内での発表やゼミ論文提出などを見て総合的に判断する。		
テキスト 授業スケジュール・内容の記述を参照のこと。	著者	出版社
参考書 適宜指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 本年度のゼミでは、コミュニティ研究演習の実習先との関連で、ゼミ内に以下の2つの班を形成し、それぞれに学んだ結果をもう一つの班に伝えるという構成をとる。 (1) 国内班： 日本国内にある社会課題がどのような諸要因に基づき発生しているのか、またそれに対して行政や市民社会（NPO など）はどのように対応してきているのかについて、文献調査を行って、途中報告し、また結果を発表する。 国内でのコミュニティ研究演習を希望するゼミ生は、1990 年代以降、日本社会で顕在化してきた様々な社会問題（できちゃった婚の増加、HIV を含む性行為感染症の増加、ニートや自殺者、不登校の増加など）の現状とその背景を解説している以下の書籍を購入し、第1 回目のゼミの際に持参するようにしてください。 山田昌弘『希望格差社会―「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』筑摩書房、2004 年 (2) カンボジア班： カンボジアの歴史や社会経済状況、行政・政治システムについての基本的な知識を得るための書籍や論文・記事は数多く存在するが、この班では特に以下の書籍の1 章ずつを班員が担当して要約し、発表を行う。 綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいカンボジア』弘文堂、1996 年 いずれの班も、何かについて「知る」という過程では、文献調査とともに、フィールド（現場）に出て、自分の目で見て、聞いて、肌で感じて、人に尋ねて、情報を集めてくることが欠かせないということをゼミとコミュニティ研究演習を通じて理解してもらいたい。また、チームで動くためには、それぞれのメンバー間や担当教員との「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」が重要であることを覚えてもらいたい。		